



働稼再発原朽老

来年初めを狙う

関西電力は21日、40年超運転をねらって工事を進めている美浜原発3号機と高浜原発1号機（いずれも福井県）について、再稼働に必要な使用前検査の変更申請書を原子力規制委員会に提出しました。今年10月ごろと

していた再稼働の目標時期を、美浜3号機が2021年1月ごろ、高浜1号機が同3月ごろに延期するといわれています。

使用前検査の変更申請は両原発とも3回目。今年3月に高浜原発で発生した作業員の死亡事故などを受け、さらに工期を見直しました。

2基と高浜原発2号機は、いずれも稼働から40年を超える老朽原発です。原発の運転期間は原則40年とされていますが、規制委が認めれば1回に限り、最長20年の延長が出来ます。関電は2016年、他社に先駆けてこれら

関西電力高浜原発（手前が工事中の1、2号機）
昨年10月、福井県高浜町

関電美浜3号・高浜1号 使用前検査の変更申請

の老朽原発の運転期間延長を規制委から認められましたが、対策工事が現在も進められています。

また来年は、3基ともテロ対策施設の設定期限を迎えます。高浜原発1、2号機は6月、美浜原発3号機は10月です。仮に来年再稼働に至っても、テロ対策設置が期限に間に合わなければ、再び停止することになります。

両原発の対策工事は9月に完了予定で、その後は再稼働に向けた地元同意が進められることになっています。しかし、昨年発覚した元幹部らの金品受領問題や、使用済み核燃料を一時的に保管する中間貯蔵施設の県外立地の指定など、課題が山積しており、地元同意が得られるかは不透明です。